

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)D7プロジェクト相模原 新築工事	階数	地上4F
建設地	相模原市中央区宮下1丁目224-325	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	90人
気候区分		年間使用時間	4,500時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年4月 予定	評価の実施日	20014/4/25
敷地面積	10,909 m ²	作成者	大和ハウス工業㈱
建築面積	6,481 m ²	確認日	2014年4月28日
延床面積	17,556 m ²	確認者	大和ハウス工業㈱



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・㎡)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.8**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.5**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
周囲の建物との調和を図った。 敷地内に十分な駐車、駐輪スペースを計画。 グリーン調達品目・エコマーク商品等の採用をおこなった。		建設工事において近隣に負荷の出来るだけからない重機の採用、廃棄物の削減につとめる。資材の再生品利用を進める。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
居室の事務所に窓を多く設置し、自然採光と換気を取り入れられるよう配慮。 JIS/JAS規格のF 材料をほぼ全面に採用。	事務所エリアの天井高2650以上確保。倉庫梁下有効6000と5500確保。	周囲の建物とのバランスを考慮して、建物の形状及び色彩等を計画した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
照明は高効率照明器具を採用。	グリーン調達品目に該当する衛生陶器やエコマーク商品に該当するOAフロアの採用。 OAフロア等、再利用できるユニット部材を用いている。	敷地内で従業員用に十分な駐車場及び駐輪場を設置。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される